

# TX沿線百首

青村豆十郎

これは筆者が大学の演劇サークルで小倉百人一首にちなんだプロジェクトを行っていた頃、つくばエクスプレスが開通した記念にその沿線にちなんで狂歌を百首つくったもの。新入生の皆さんがつくばを知る上で参考になるかもしれないと思い投稿することにした。

狂歌とはその形式は短歌に酷似しているものの、文学的には全く相容れないモノとして扱われている定型詩。現代でも人気のある川柳や都々逸と比べて大変不遇な死せる文化である。ちなみに、筆者青村豆十郎は現在世界でも十本の指に入る狂歌詠みであると自負している。

TX沿線百首を創る上で苦労したのは歌を詠むことよりもなによりも、百首分のテーマを選定することであった。友人たちにつくばや沿線地域の観光スポットや各種施設について調べてもらい最終的には横に挙げたような構成になった。

- 《つくば駅》 五首
- 《県内 TXの各駅》 五首
- 《中央公園と周辺の施設》 五首
- 《松見公園と食いだおれ周辺》 五首
- 《大池公園と周辺史跡》 五首
- 《筑波山》 五首
- 《シヨッピング》 五首
- 《つくばらしい風景》 五首
- 《公園通り》 五首
- 《筑波大学》 五首
- 《中央広場周辺風景》 五首
- 《つくばと並木道》 五首
- 《つくば市観光施設・商業施設など》 十首
- 《研究施設のある博物館》 五首
- 《イベントホール》 五首
- 《つくば的なモノメント》 五首
- 《つくばみらい市》 五首
- 《守谷市》 五首
- 《嘉寿詠み語呂合わせ》 五首

## 《つくば駅》

つくば駅はセンターにある地下駅。TXの始点である。春・夏・秋・冬・四季の構成になっている。

俺たちの時にはバスで受験さと

新入生に語る春先

春、筆者はTXのできる以前に受験した。土浦からバス。あるいは東京からメチャ混みの高速バスを使うしか交通手段が無かったことを覚えている。

地下道に早く降りたい炎天下

熱島各地へ帰省する友

夏は帰省風景。熱島各地は列島各地のもじり。

秋葉から下る電車のつくば駅

笑顔を連れて戻る人々

秋は秋葉でこじつけ。また、「つくば」と「着く」との掛詞。

人々の声はつどいて皆の駅

わずかに積もる今日の初雪

冬は、市民の要望で出来た駅を表現。対句的な表現技法を使っている。

つくば駅いつもの人の乗り降りの

中にも見える四季の折々

四季は「乗り降り」と「折々」との音あわせ。

## 《県内 TXの各駅》

県内にはつくば駅の他にTXの駅が5駅ある。そこでそれらを一つずつ春・夏・秋・冬・四季の構成で詠んでみた。

春雷やみらい平にふりそとく

雨に匂える都市の風風

春は「みらい平駅」この言いづらい駅名が英語の早口言葉「スペインの平野に雨降り注ぐ」をイメージさせた。空気のきれいな場所ほど雨の排気ガスのおいが気になる。そんな田舎の情景を詠む。時空間を飛び越えているような感じが気に入っている作品。

夏の日のみどりの駅の野の果ての

芝の青々広がり続く

夏は「みどりの駅」近くはゴルフ場ばかり。駅名にも含まれている「の」を何度も重ねて使うことで視界の広がる様を表現してみた。

秋の日の柔き光に乙女らは

並ぶ柱に見え隠れする

秋は「万博記念公園駅」ガラスとピラーで構成された駅外観からこの歌を詠んだ。

交じり合いまた別れ行く人の列

師走の駅はじつと見守る

冬は「守谷駅」常磐線との交差乗換駅のイメージと守谷の守るという部分からこの歌を詠んだ。

その駅は研究学園という名前

新しい街出発進行

四季は「研究学園駅」新しくつくば市の総合市庁舎を置く予定があり、周辺地域の開発が期待される。

# 《中央公園と周辺の施設》

中央公園はつくばの中央、筑波大学や筑波学院大学とセンターとの間に位置する最重要拠点である。池と芝と散歩道そしてオブジェ、周囲には各種の文化施設がある。春・夏・秋・冬・四季の構成になっている。

## 春風に誘い誘われふらふらと

### さくら集まる公園の隅

春は「さくら民家園」無料かつ風情ある建物。桜の木は近くには見あたらない。太鼓とかお茶とか昔話の語りとかそういうイベントにはもってこいの建物。

## 夏空のプラネタリウムに見入る子の

### 真横で親は寝たり起きたり

夏は「プラネタリウム」科学館の中にある。「ふら寝たりうむ」という語呂合わせ詠み。落語のような風情が気に入っている作品。

## 天高く馬肥ゆる秋空の先

### 越えてゆくよなH2ロケット

秋は「H2ロケット」つくばのランドマーク。学生にはレオナロケットと呼ばれていたこともある。つくばに何かがあったときに江崎玲於奈氏（ダイオードでノーベル賞を取った人。筑波大で学長をしていた。）が逃げるために設置してある噂された。もちろんそんな機能は無い。

色壁を背に池眺める恋人を

さらに眺める小春日の昼

冬は「水上レストハウス」つまり休憩所。市民ギャラリーとしても使える池の上の建物。ここで公演をしたこともある。

つくば発知識の駅の行き帰り

知るを求めて創るを求めて

最後は「アルス」。これは中央図書館、アルスホール、つくば美術館がセットになった施設である。「アルス」はギリシヤ語で学術とか科学という意味。「アルス・アマトリア」のアルスだが、最近の学生はこんな書物は知らないと思う。

## 《松見公園と食いだおれ周辺》

松美と間違いやすいので注意。春日キャンパスと天久保キャンパスの間に位置する。この辺りを春・夏・秋・冬・四季の構成で詠んでいる。

病院のそばの古書店立ち寄りて

活字中毒の薬を買い帰る春

春は「メディアカルセンターと古書店街」とちらも筆者がよくお世話になる場所。昔は5、6軒はあった古書店街の古書店も今はずいぶん減ってしまったのが残念。

## 夏草や松見公園池の中

兵鯉が我に群がる  
casara

夏は「松見公園の池と芝生」にこの鯉は恐ろしくでかい。どの鯉も他の池ならヌシで通用するだろう。これは芭蕉の句をふまえた詠み。

## 食欲にスポーツ行楽読書まで

悔いなく遊び倒すこの秋

秋は天久保の周辺施設、呑みやカラオケなど大学生の手軽な遊び場である。「○○の秋」の○○に入りそうなものが集まった場所。

## カラカラと筑波下ろしが抜けていく

栓抜き穴に俺は立ってる

冬は「松見展望タワー」通称せんぬき塔。つくばで暮らしている間に、一度くらいは登ってみるといいかもしれない。

## くい倒れそう呼ばれてはいるけれど

学園都市の食を支える

最後は「食いだおれ横丁」。文芸部でミーティング後に繰り出すときもこの辺りが多い。学園祭の打ち上げや新歓、追いコンなどよく利用される。

## 《大池公園と周辺史跡》

筑波山の麓あたり。車がないとあまり行かない場所だと思われる。こゝでも春・夏・秋・冬・四季の構成になっている。

花筏越えて魚も音に聞く

春の盛りの堤の賑わい

春は「大池公園」花見の名所。池の周りに沿って桜が植わっている。こゝの桜は散り始め以降が私は好き。

夏終わり 平沢官衛訪ね見て

花の頃また来ようと思う

夏は「平沢官衛」奈良平安時代の役所跡。近くに大池公園、小田城趾など。筑波山の眺めも良い。

幼な児をその病難より救わんと  
いわれ残れる子育観音

秋は「慶龍寺」七五三の風景などをイメージ。茨城の七五三は派手らしい。



衣打つ音は途絶えて久しくも

絹まゆ発祥の地とや伝わる

冬は「蚕影山神社」砧(きぬた)をうつのは冬の季語。

筑波駅そんな石柱表示票

廃線跡に自転車走る

最後は「つくばリンリンロード」土浦く岩瀬間約6キロを走っていた筑波線という線路の跡地がそのままサイクリングコースになったもの。廃線オタクにも人気。

## 《筑波山》

男体山と女体山の二つの峰があるこの山は『万葉集』にも二十五首採録され、古来より信仰を集めてきた山であることがわかる。やはり春・夏・秋・冬・四季の構成で詠んだ。

浮世絵に見るがごとくの岩に梅

ひとあし早い春に浮かれる

春は「筑波山梅林」山の中腹に幾種類もの梅が植わり季節には野点などのイベントもある。

ロープウェイケーブルカーは人の道

牽牛織女けんぎゅうしよめにカササギの橋

夏は「七夕祭りなど」。この歌は百首の中でも筆者お気に入りの一つ。筑波山神社は縁結びの神としても有名であるが、七夕もまた「出会い」につながる行事なのである。

三色の山がそのうえ 錦にしき着る

賑々しきや紅葉の秋

秋、筑波山は時間帯により色を変える山と言われている。それが紅葉によつてさらに色合いを加える様を詠んだ。

初筑波慣れない季語を詠みにけり

藍をなしたる二峰の山

冬は筑波山の「遠景」。「初筑波」は新年の季語。「藍をなしたる」は「愛を成したる」に通じる。

季節ときを越え万葉神代の時代まで

我われをいざなうイザナギイザナミ

四季は「筑波山神社」。音を利用した詠み口。

# 《シヨッピング》

つくばでの割合日常的な買い物場所いろいろ。

突然の休講となりや浮かれつつ

少しの遠出でここLALAガーデン

春はLALAガーデンこの歌を詠んだ頃は出来たばかりだった。LALAの響きに合わせ、音の重なりを多用した。「浮かれ」は私にとって春の季語。

何気なく休日に見る蚤の市

地域の人と話す楽しさ

夏は「フリーマーケット」休日にはけっこう頻繁に行われている。

秋葉には45分でいけるけど

それでもここにもほしい店々

秋、現在石丸電気がある辺りを「つくばの秋葉原」という、かつては他にも電気店があった。多くは郊外に移っている。なお、TXは秋葉原まで最速45分。

突然の話で決まる鍋。パーティ

買出し班で連れ立って行く

冬、うちの学生がよく行くのは「ジャスコ SEIBU 学園市場 カスミと  
りせん」あたり、「やまや 田上酒店」などで酒類も買う。筑波大学の側で  
は「カワチ まるも ミヤモト」であろうか、また条件によっては「ハナマサ」や  
「業務スーパー」などにも行く。

駅を出てすぐのところ立ち並ぶ

ショッピング街皆アルファベット

四季、例として「ai ai モール、CREO、Q's、MOG など」

## 《つくばらしい風景》

近代になって突如土地計画が進められた人工の街それが「つくば」。ここ  
には自然に発展してきた街とはどこか違う風景がある。そんなつくばらし  
さを詠んだ五首。やはり季節ごとの構成になっている。

街中に川はなけれど春霞

かかる道路に橋がいくつも

春は「道路橋」多数存在。バス停のある「並木大橋」なども河川にかかる  
橋ではない。「かかる」は「架かる」「(霞が)かかる」の掛詞。また、つくばでは  
霧や霞の発生率が高い。

## 名も知らぬ公園のある帰り道

### 夏の夕日にブランコの影

夏は「公園」。つくば市内には緑地などは除いても100以上の公園がある(都市の公園には総合公園・運動公園・地区公園・近隣公園・街区公園・緑地などの種類がある)。また、街区公園(半径250m程度の街区に居住する人々が利用する0.25haを標準とする公園)も大きなものが多く、例えば春日キャンパスを出てすぐにあるデニーズの横の公園などは街区公園とは思えないほど遊具などが充実した公園である。

## 街中を少し抜けければ眼の前に

### 実りの秋が収穫を待つ

秋は「郊外の風景」。見渡す限りの田畑の中に突然都市がある。と、とあるマンガの中に書かれているが、本当にその通りである。

## 見渡せば電線のない冬の空

### ふくら雀が並びいる柵

冬。つくばには主要な電線が埋設されていて電柱が少ない。ちなみにつくばの地中には総延長約74kmの共同溝が埋め込まれ、上水道管、地域冷暖房配管、廃棄物運搬用真空集塵管、電力線、電話線、ケーブルテレビ(ACCS)線などが収容され、これらの工事の際に道路を掘り返す必要がないように配慮されているそうである。ふくら雀とは羽に空気を入れて寒さをしのぐスズメで冬の季語。

詠み歌の続き探して踏むレンガ

遥かにつづくよ。ペDESTリアン

四季は「ペDESTリアンデッキ」散歩道という意味。複雑に張り巡らされた自転車道、通称ペデ。煉瓦と連歌のイメージを掛詞的に使った。

## 《公園通り》

中央公園から南に延びるペデを通称 公園通りという。それに隣接する五つの公園を春・夏・秋・冬・四季の構成で詠んでいる。

春の芝眺めてベンチにいる方が

長い気がする散歩の時間

春は「洞峰公園」。南の方のかなり大きな公園（県営の総合公園）。

童心に返り立ち寄る公園で

気にせず浴びる水も視線も

夏は「大清水公園」カピオの前にある噴水のある公園。夏は涼しげで良いが、冬は寒々しい。

ヘデの端折り返し前にひと休み

小さな森にのまれてみます

秋は「赤塚公園」公園通りの南端。運動部などではここまで走って行って戻ってくるなどというところもあるだろう。行って帰ってくると6キロくらい道のりだろうか。

風の子の声の聞こえる小公園

暮らしの間にひっそりとある

「竹園公園」は公園通りの公園としては小さいが中央の住宅街に近く子どもたちの姿も多い。

二の宮のオルゴール鳴る時計台

住宅街からかすかな音聞く

最後「二の宮公園」は公園通りの中継点。自転車や徒歩で行くにはぎりぎりの距離である。

## 《筑波大学》

筑波大学に関しては詠みたい事がいろいろあるが、~~1~~沿線全体を詠むのが目的なので五つで止めておく。いつか、筑波大学だけで百首詠んでみたい。今回入らなかった開学記念館とか、追越平砂の宿舍とか、新聞とか学園祭とか取り上げたいテーマはいくつもある。

## 橘の昔の人の面影の

### 春日なるかな大学の跡

春は旧図書館情報大学、春日キャンパスである橘(たちばな)は旧図書館情報大学のシンボルであるとともに、その香りは昔の人を思い起こさせるといふのが和歌の約束事である。また、「微か」と「春日」を掛詞とし、春日(しゅんじつ)に昔を思う歌である。お気に入りの一つ。

## 夏の陽はまつすぐに射す講堂前

### 窪地に短き石柱の影

夏は大学会館の大講堂の前にある石柱。ここが窪地になっているのは大で抗争があつても立て籠もりづらくするための工夫であるとされている。

## 一の矢を入れる日暮れ時寂しさを

### ここに筑波の秋は来にけり

秋は大学北端側の「一の矢宿舍周辺」。「矢を射る」と「日が入る」と「居る」、「筑波」と「着く」、「秋」と「飽き」、「此处」と「戸々」や「個々」、「来にけり」などの縁語や掛詞を多用した作品。春、夏、秋と、日をテーマとした歌になっている。

## 自転車のスピード上げて過ぎ行けば

### 池を横切る大気冷たし

冬は「松美池と大気の像」松美池は平塚線を越えたところに広がる大き



な池。冬場自転車を通ると風が寒い。その畔には芸術学群の人たちがつくったと思われるオブジェがいくつもあるが、中でも「大気」と題された人物像はもともと目立つ位置にある。絵画『アテネの学堂』の両哲学者を合体させたような像で偶に変な服を着せられている。

## 気が付けば学びの窓の先にある

### 雑木林に四季の営み

最後は、「キャンパス内の自然」である。学内は無駄に自然にあふれ、目立たないながら果樹、山菜、茸なども豊富にある。また、見る人が見れば、野鳥や昆虫なども種類、数ともに豊富であることがわかる。

## 《中央広場周辺風景》

中央公園、センター、石の広場、aiaモール、ジャスコ、学園市場この辺りのイベントや風景の描写。

## 居ながら五感に感じる国際色

### 春の終わりにつくばフェスティバル

春は「つくばフェスティバル」このお祭りはつくばの雰囲気を知るために是非行ってみることをおすすめする。露店も国際色豊かで楽しい。各国別の露店に「沖縄」なども混じっていて笑える。筑波ハムなど地元の物産もおいしい。また、この機会につくばエキスポセンターや、そのプラネタリウムなどを体験しておくのもいいだろう。

海外に行ってみたことないけれど

いつも乗るバス成田行くバス

夏は「つくばセンター」の情景。町の中央にあるバス乗り場。「X」が出来た後もバス利用者は多い。この歌は私自身ではないが、「ま、こんな帰省手段の人も居るかな」という気持ちで詠んだ。軽く、成田直行のバスもありますよ、というアピール。

関東に青森ねぶたが踊る秋

同じ日本の祭りと思えば

秋は「まつりつくば」、売りは関東最大の青森ねぶた祭り、なんのこっちゃ。要は伝統が薄いので金で他から祭を買っているのである。出身が青森だったりしなければそれなりに楽しい。

雪の舞うオレンジ色を通り抜け

過ぎ行く人をテレビで眺める

冬、つくば市には地元ラジオは無いが地元テレビはある。夜中などは定点カメラからの映像を映している事が多い。この辺りでは雪は珍しい方だが、降ったら融けづらいという傾向がある。

御用なくお急ぎでない人ばかり

オープンモールにロケ車を囲む

四季、つくばは特撮などでロケ地になっていることが多い。買い物帰り、人混みが出来ているのでなんだらうと思つて見に行くと撮影中であつたりす

る。「二用とお急ぎでない方はゆっくりと聞いておいで、」筑波名物ガマ口上の文句である。

## 《つくばと並木道》

筆者は、自分の名前に樹を含むこともあり、樹木への思い入れが深い。つくばは並木通りはどれも立派で、手入れも良くされているという印象がある。また、大通り以外にも旧街道とその名残がいくつか通っていて当時の街路樹が残っていることもあるようだ。

ひどくみもさることながら見事なり

### 五百本の桜のトンネル

春、「農林研究団地の桜並木」は花見の超人気スポットだが、筑波大生は学内や松見公園で花見をすませるのが普通だろう。

盂蘭盆会早めに戻る研究所

### イチヨウ並木はまだ緑色

夏、「工業技術院のイチヨウ並木」ほかにも、銀杏を街路樹としている通りは多く、時期によっては落ちたギンナンが臭く、タイヤが種を弾き飛ばすことがあったりして注意が必要である。

名月や櫛に鈴架け揺り行きて

その色変えて曙過ぎる

秋は筑波大学の中にある、五本の並木通り。すなわち、ケヤキ、ユリノキ、カエデ、スズカケ、アケボノスギを詠み込んだ歌。童謡「雨降りお月さん」のイメージを根底に入れている。

江戸期から幾冬越えしか不動松

伊賀七時計も計れぬほどに

冬、谷田部の「不動松」江戸時代からの松並木で県指定文化財。一部は倒木の危険から切り倒されてしまっている。また、この江戸時代の谷田部には飯塚伊賀七という発明家が生まれ、和時計やからくり人形、機械、建築物などを設計して作った。彼の物と伝えられる五角堂と和時計は今でも伝わっている。

この道を行き交う人に自動車に

四季を教えるつくばの並木

四季で、「詠み漏らした並木通りすべて」、ということにさせてもらおう。リストアップするならば、東大通りのトウカエデ並木、西大通りのゆりのき並木、国道108号線モミジバフウ並木、土浦学園線のイチヨウ並木、中央通りの花水木並木。

## 《つくば市観光施設・商業施設など》

これだけは他のテーマの倍の十首集めた。いちおうこの狂歌集の目的がつくば市の発展を願うPR目的のものだからである。構成は春・夏・秋・冬・四季をそれぞれ二つずつ。

匂いたつ君を譬えし花ばかり

芍薬牡丹百合に紫陽花

春一つめは「つくば牡丹園」。立てば芍薬、座ればボタン、歩く姿は百合の花。これが美しい女性のたとえだが、そこに使われるような美しい花ばかり。この植物園は荃崎にあり、牡丹園としては結構有名。

俺たちのゆかりの森さと馴れ初めの

ノロケを語るつくばカップル

春二つめは「豊里ゆかりの森」。ロッジ、キャンプ場、アスレチック、ラベンダー園、屋外劇場そのほか様々な施設あり。

入道雲ヒゲを剃るのかその腕を

シエーバービルの脇にのばして

「三井ビル」おそらく、つくば一高い建物で、その形から「ひげ剃り」と呼ばれている。「入道雲」が夏らしき。

この夏にあの毛玉では暑かろう

思いをよそにじやれる犬たち

夏の二つめ。「つくばわんわんランド」つくば市北部にある犬のテーマパーク。80犬種350頭の犬が居る。この種のものとしては結構大きいのではないだろうか。

幼虫の落ち葉の下に居るが 如ごと

夏の日眠る昆虫標本

秋の二つめ。「豊里ゆかりの森昆虫館」先ほど出てきた豊里ゆかりの森の中にある施設。夏休み中などは結構にぎわっているらしい。

陣中膏ただの蛙のものでなし

売りは芸のみガマの口上

秋二つめ。「観光ガマ園」筑波山の斜面にある。数千匹の蛙を飼う施設。日曜日にはガマ口上なども行われ、ガマ神社もある。つくばらしい観光施設。

ハムベーコン手作りしつつ話す

欧州の村の冬の備えを

冬の一つめ。「筑波ハム」非常においしい。県外へのおみやげ品としては高きが喜ばれることうけあいである。人気の観光スポットでもあるらしい。

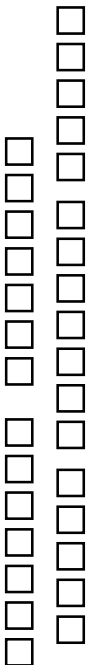
## 双峰を間近に望む露天風呂 出湯の湯気に融ける風花

冬二つめ。「つくば湯」筑波山温泉 双神の湯。へえ一応、温泉があるんだという感想。人気は広い家族風呂。恋人同士で入るらしい。

## 何もないウィークデイは映画の日

### 劇場一本レンタル三本

「シネプレックス その周辺」ほとんど授業の無い平日が出来たようなどきは映画を見に行くのも良いだろう。つくばで映画館となるとちよつと遠いがシネプレックス。DVDを借りてきて友人と見るのもいい。



(即興で好きな場所をテーマに読む)

作例 (RanRan)

つくばねのはずむようなるRanRanはそのりようでこそつとに知らるる

作例 (牛久大仏)

大仏の目線で見れば気も広く憂しと見し世ぞ久しくあれかし

どうも、コレというものがなかったので逃げの一手。筆者は即興の狂歌には多少の自信がある。

# 《研究施設のある博物館》

つくばといえば研究所。なんだか立派な研究をしながら博物館という形で一般公開する部分を持つ。大変すばらしいことだが、それをテーマに歌を詠むのは難しい。これと次の《イベントホール》、《嘉寿詠み語り呂合わせ》に関しては季節の縛りを外させてもらった。

広き庭昼中かけて巡りみて

狭き日本の縮図という人

「筑波実験植物園」あやしい名前である。日本中の植物が植わっている。時季はずれば人も多くないし、特殊なデーツスポットにはなるかも。

宇宙一大きな夢を描こうよ

ロケット一本クレヨンにして

「宇宙開発事業団筑波宇宙センター」JAXAです、昔はNASDAだったかな。日本のNASA。自分が言うのも変だがこの歌の詠み口は恥ずかしい。

その足で日本全土を知るチャンス

東京までを頑張つて跳ぶ

「国土地理院 地図と測量の科学館」個人的には結構良い博物館だと思う。



幾万年幾億年の彼方より

ハテナに答える地質標本

「産業技術総合研究所 地質標本館」産総研の博物館。石とか、星とか、虫とか、武士とか、そういうものにやたら詳しい小学生って居ますよね。この歌は「？」と「果て」が掛詞。

農林水産業の 絃<sup>いと</sup>張る柱

母なる地球<sup>ほし</sup>の恵み調べる

「つくばリサーチギャラリー」食と農の科学館。シンボルモニュメントの農林水イメージした柱に楽器の三味線のように「三行」の弦を張ったイメージで「調べる」をリサーチの意味と楽器を奏でる意味の二つで使っている。

《イベントホール》

この沿線百首づくりは劇団のプロジエクトだったので、つくば市内で演劇の行えるような場所、イベントホールについて一つ一つ取り上げて見たいなあと考え、友人たちにもどんな場所があるか一通り調べてもらった。結果としてそのような場所は多数集まったのだが、どれもこれも詠み辛い場所だった。

いつだって君に何かが新しい

そんな表現伝えるホール

「ノバ・ホール」ai ai モールの上にある音楽ホール。筑波大の音楽系合同イベントである「スプリング・ジョイント」などが行われている。「ノバ」はイタリ

ア語で新しいという意味。

## 玉手箱寄せ木の小箱宝石箱

### 魔法の箱の集まるどころ

「つくばカピオ」四角い演劇ホールを中心とした施設。カピオとはラテン語で箱という意味。ここを使うのは演劇関連のイベントが多い。

## 画期的案件提言大発見

### 実現生み出す巨大会議場

つくば国際会議場「エポカルつくば」。会議や個展、結構大きなシンポジウムなど。民間施設なので借りる時の費用が高い。

## 筑波嶺や食へ

みな みな ぶれあい ぶれあい

## 男女触愛の歌 にく 心憎き

### 座興ざきょうの俗ぞくとよ さと 里さとの歌垣

つくば市の「市民ホール」五つ。「つくばね、やたへくきざき、とよさと、ふれあい、荻崎のふれあいプラザ」とすべてを詠み込むとともに、歌垣のイメージをつくっている。歌垣とは、特定の日に男女が集まり和歌を詠み交わす合同コンパのこと。「耀歌かがい」とも言う。『万葉集』には「驚の棲む筑波の山の裳羽服津のその津の上に率(あども)ひて娘子壮士の行き集ひかがふ耀歌に人妻に我も交はらむ我が妻に人も言(こと)問へこの山をうしはく神の昔より禁(いさ)めぬわざぞ今日のみはめぐしもな見そ事もとがむな」とあり筑波山に未婚既婚の男女が入り交じりさながら乱交パーティーのように歌垣を楽しんだという様子が残っている。男体山女体

山とある筑波山は歌垣が最も古くもつとも盛んに行われていた聖地でもあったことがわかる。

昼下がり風も足留め風ぐほどに

心誘うやアゴラの出し物

つくば市には「屋外ステージ」として用意された場所や、そう成り得る場所がたくさんある。例えばゆかりの森・LAVAガーデン・センター広場・つくばカピオ正面広場・中央公園水の広場などである。アゴラというのはギリシャ時代のポリスに政治交流の場として必ず存在した「広場」のことを指す。

## 《つくば的なモノメント》

科学と芸術の併せて学術の色彩に塗りたくられた人工の街つくば市。その結果として随所に建っている未来的で前衛的な各種モノメントは最もつくばらしさを表しているのではないだろうか。

長閑なる春の陽気も無関係

今日も素粒子かけっこしてる

「KEK 高エネルギー加速器研究機構の加速器」全体像は航空写真でない  
と確認できないが、つくばの中心から北に行くとの道の横に施設の一部が見られる。サイクロトロンというのは馬鹿でかくてお金の大変かかる長距離走のトラックである。

夕立を集めうけては重からん  
天に向いたる巨大パラボラ

「国土地理院の巨大パラボラアンテナ」たぶんずっと真上を向いている。学園と田舎の境目辺りにある。

龍脈の要とならん造形に  
長雨の降る芸術の秋

「龍の塔」すでに取り壊されてしまったがTX開通を記念して建てられた芸術作品。

龍の塔←



冬空の四方<sup>よも</sup>を眺むる偉人たち

科学の門は永へとこしえに開く

「万博記念公園内 科学の門」科学万博跡地に作られた高さ十メートル程のオブジェ。見る方向によりアルキメデス、ガリレオ、ニュートン、エジソンの顔が浮かび上がるという。そばにあった岡本太郎作モニュメント『未来を視る』は今はTX万博記念公園駅の駅前に移されている。ちなみにこの駅から件の公園までは徒歩30分以上なので注意が必要である。

## 一年中自然と科学の結界に 守られた都市安全の街

「四神を象徴する柱」研究学園地区の入り口に立つ風水の四神相応に基づくといわれる呪術装置。道の両側に三本ずつ6本の柱からなり四神に見立てた配色で6箇所が存在する。それぞれ玄武門（東大通り）、青龍門（土浦学園線）、白虎門（エキスポ大通り）、朱雀門（牛久学園通り）、その他中央付近には、田園都市ゲート（県道55号東大通り）と研究都市ゲート（県道244号西大通り）がある。

## 《つくばみらい市》

TX沿線で茨城県内つくば市以外の市町村ということで守谷市とつくばみらい市を五首ずつ詠んだ。どちらも春・夏・秋・冬・四季の構成になっている。

## 桜木の二マイルほど続く道 福岡堰の柔らかな春

春は「小貝川福岡堰」。旧谷和原村の桜の名所。

境内にあやつりは舞う炎あげ

綱火が茨城伊奈を彩る

夏は「綱火」。からくり人形花火、なんかすごそう。でも実際には見たことが無いので想像で詠んだ。

秋風に身を縮めしもカチンコの

音より先は鯔背な江戸っ子

秋は「ワープステーション江戸」江戸時代体験テーマパーク。時代劇の撮影に使われることも多い。

海峡にその名を残す林蔵の

故郷の墓に残る思いを

冬は「間宮林蔵記念館」。間宮海峡の、間宮林蔵生誕の地なんだそうです。

稲や藁いな縫よりあう縄の長くある

歴史と伝統未来の展望

つくばみらい市は伊奈町と谷和原村の合併ということで、「伊奈谷和原」  
「寄り合う」とを掛けた詠みで言祝ぐ。

# 《守谷市》

県南の玄関口に 逸早くとびはやく

列車とともに春訪れる

春、守谷市は二つの県境に位置する。

月並みと言われようとも夏だもの  
ビールを詠まずに居られるものか

夏、「アサヒビール茨城工場」は人気の観光スポット。

常々は書齋派気取る我とても  
公園に出てスポーツの秋

秋は「常総運動公園」。

冬 来ぬと眠り支度の森や川  
人も 其処そこ此処ここ 買出しに出で

冬は「市境全てが川である守谷市」。利根川鬼怒川小貝川の「とね」「きぬ」「こかわ」と「かわ」「もりや」を詠みこむ。

桜木に躑躅木槿ついで ちんぽに紅葉まで

木々の色あや廻めぐる四季の池

守谷市の最後は「四季の里公園」でうまく収まった。

《かず嘉寿詠み語呂合わせ》

群馬県の県境、碓氷峠に「一つ家の歌」と呼ばれる歌碑がありそこには

八万三千八 三六九 三三四七

一八二 四五十二四六 百々四億四百

とある。これは「山道は 寒く 寂しな 一つ家に 夜毎に白く 百夜置く 霜」と詠む。つまり数を使った語呂合わせ。作者は武蔵坊弁慶と伝えられている。

これにヒントを得てつくったのが最後の五首。横書き表現のものが三首含まれる。

九百四六八万二八七三九 十百八三四

三七三二四六八 九 万千七三

(雲白く 山に花咲く 友優し 皆身に染むや ここの町並み)



$$\frac{\text{みな } 777 \text{ 荷 } 2}{(\text{急行列車 } 95 + 95) + (\text{しあわせ } 4 + 4)}$$

サンキュー

$$= 39.25252525\dots$$

ここにここにここ\*\*\*

※読み↓

(皆や荷を乗せて幸せ急行列車 ありがとうとの笑顔あふれる)

計算もあっています。

(徒然に筑波詠むこの挑戦も百景詠みなしおくも一興)

二 零 二 零 二 一 二 九 八 四 六 九 兆 千 百  
百 京 四 三 七 四 億 百 一 京

2 9 8            3 6            8 4 0 4            T X  
1 0 0 6 = 1 9            2 2 9 4            1 0 = 2

※読み↓

(筑波山麓 走れよTX 線路は遠く 続くよ永久に)

破調の一首。

2 9 8    - 1 0 0 6            + 4            + 5            + 1 0  
1    3    1 0            8    1 0            4 6 5 8 4 8 7

※読み↓

(つくばから線路がひかれ仕事増え

いちさと発展喜ばしやな)

「いちさと」は茨城・千葉・埼玉・東京の沿線4県の頭文字をつないだものでTX周辺開拓のキーワードとして使われている。